長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY
ISSN 1347-7994

長崎大学広報誌［長報：チョーホー］

CHOHO

2006.April Vol.15
SPRING

特集

国際貢献を目指す **CICORNの挑戦**

長崎大学 **文教キャンパスマップ**

学長コラム

世界平和を支える創造力を秘めた諸君へ

わが国の死亡原因のトップは悪性腫瘍（ガン）であること、ついで心疾患、脳血管障害と続くことは皆さんよくご存じでしょう。

でも、グローバルに見たとき死亡原因のトップ（ナンバーワンキラー）は何だと思いますか？それは「感染症」です。開発途上国では細菌性下痢、結核、マラリア、デング熱、エイズなどの感染症が猛威をふるっていて多くの命が奪われ、多くの人々が倒れ、その経済的損失は計り知れません。

去る三月十七日、文部科学省の大型研究費による「新興・再興感染症に関する〈ベトナム国立衛生疫学研究所〉と〈長崎大学〉の共同研究」のベトナム研究拠点開所式のためハノイへ行って来ました。ベトナム社会主義共和国Tran Thi Yrung Chien保健大臣、Nyuyen Tran Hienベトナム国立衛生疫学研究所長、服部則夫在ベトナム日本国特命全権大使、富岡勉衆議院議員（前長崎ＴＬＯ社長）、林幸秀文部科学審議官、他多数のご来賓が列席下さり盛大な開所式でした。長崎大学はナイロビの〈ケニア中央医学研究所〉にも感染症制御拠点を昨年九月に設置し、双方合わせて二十名を超える長崎大学研究者が常駐し活動しています。このように文科省の大型研究費で外国に感染症制御の拠点を設けているのは長崎大学だけであり、本学の大きな特徴です。

「感染症の制御」というと、医学の分野に限られる仕事と思うかもしれませんが、それは違います。医学はもちろん重要な分野ですが、そのほか薬学、保健学、環境科学、社会開発工学、地域経済学など多くの分野の研究者が結集して行政および地域の人々の協力のもとに行う総合プロジェクトです。そうでなくては人間集団の健康状態を向上させることは不可能です。

長崎大学は地球の平和を支える科学を創造することを目指しています。

人間の健康水準を向上させ人々を幸せにする仕事に情熱を持っている高校生の皆さん、長崎大学にいらっしゃい。また、他の大学を卒業した人は長崎大学大学院へいらっしゃい。

追伸：学長メッセージ（http://www.nagasaki-u.ac.jp）にもアクセスしてご意見をください。
メールアドレス：president@ml.nagasaki-u.ac.jp　必ずお返事します。

●CONTENTS

《特集1》国際貢献を目指す CICORNの挑戦 …… 1
《特集2》長崎大学 文教キャンパスマップ …… 6
《医学は長崎から》出島の医学の誕生 …… 8
《いいたか放題》長崎放送会長 冨田 忠溥さん …… 10
《We Love Circle》弓道部 …… 11
《輝く学生生活のために》長崎大学の就職支援 …… 12
《留学生のお国自慢》コスタリカ …… 12
《古写真・ひと万華鏡》―長崎奉行 服部長門守常純― …… 14
《長大ニュース》 …… 15
《インフォメーション》・《編集後記》 …… 17

◎本紙記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌CHOHO○号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報企画委員会までご連絡願います。

平成18年3月17日（金）に行われた「新興・再興感染症に関する＜ベトナム国立衛生疫学研究所＞と＜長崎大学＞の共同研究」におけるベトナム研究拠点開所式（ベトナム：ハノイ）の様子。

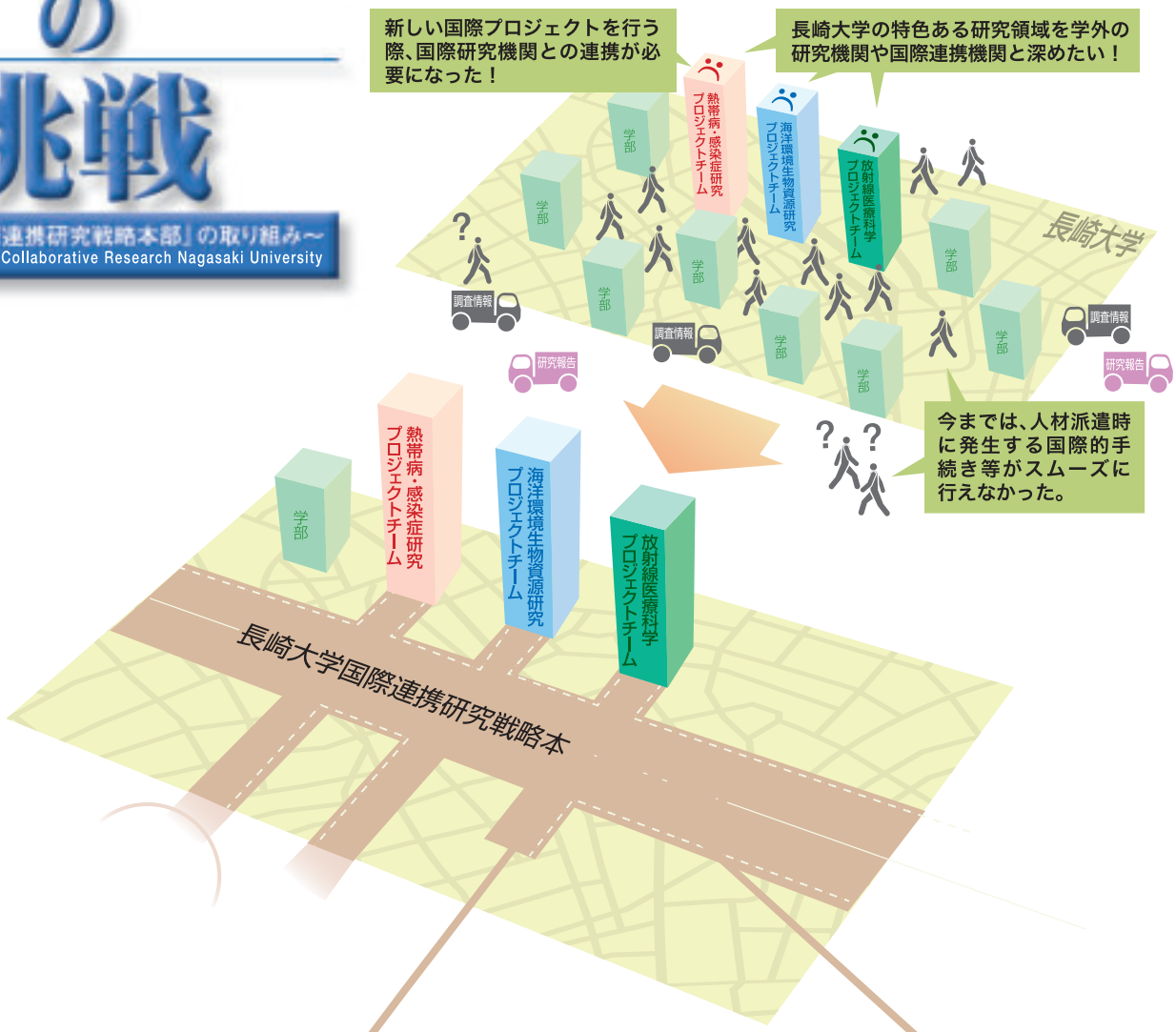
左から
- 文部科学省文部科学審議官 林 幸秀 氏
- ベトナム保健大臣 Tran Thi Yrung Chien 氏
- 理化学研究所感染症研究ネットワーク支援センター長 永井 美之 氏
- 衆議院議員 冨岡 勉 氏
- ベトナム国立衛生疫学研究所長 Nyuyen Tran Hien 氏
- 在ベトナム日本国特命全権大使 服部 則夫 氏
- 長崎大学長 齋藤 寛

国際貢献を目指す

CICORNの挑戦

～「長崎大学国際連携研究戦略本部」の取り組み～

Center of International Collaborative Research Nagasaki University

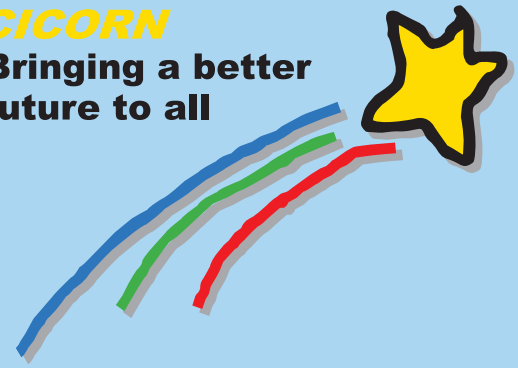


［国際貢献に関する新組織の誕生］

2年前の国立大学法人化に際して、法人に付与された自由度を最大に活用し、他大学にまねのできない特色ある組織を新たに創り上げることを考えました。長崎大学の特長とは何か、頭をひねって行き当たったのが「国際」の2文字でした。こうして昨年4月に誕生したのが「国際連携研究戦略本部」です。英語でCICORN（サイコーン）と略称します。

まだ創成期の試行錯誤の最中ですが、国際畑に通じたプロ集団が集結し、全国的にも高い評価を得つつあります。CICORNのロゴマークには、Bringing a better future to allの標語の下に、CICORNから発する3本の線とその先に黄色の星が配してあります。3本の線は大学の重点3研究領域（感染症、放射線、海洋）を意味しており、黄色い星は若人をもイメージしています。「長崎から世界にはばたき、世界の星となれ」との思いを表したものです。

CICORN
Bringing a better future to all



長崎大学国際連携研究戦略本部ホームページ
http://www.cicorn.nagasaki-u.ac.jp

STAFF 国際機関を経験したスタッフの導入

戦略本部最前線で活躍するスタッフは、国際研究機関との接点が多くなることから、国際機関を経験した副本部長とコーディネーターで構成されています。当スタッフは、国際研究マネージメントの支援、新たなプロジェクトの発掘や企画などを行いながら長崎大学と国際研究機関とを密接につなぐ役割を担っています。

副本部長
平山 謙二
Hirayama Kenji

50年後、世界で大きく瞬くCICORNであるように

「長崎大学の将来像として私が描いているのは、世界の中で小さくてもきらりと光る大学です。大学の打ち出した中長期的な国際戦略によって、50年後には必ず知る人ぞ知る世界の長崎大学になっていることでしょう。

そして我々の仕事はCICORNの軌跡として長く語り継がれることになります。」

東京医科歯科大学大学院を修了後、九州大学生体防御医学研究所、聖マリアンナ医科大学、米国ハーバード大学、埼玉医科大学を経て、2001年4月長崎大学熱帯医学研究所教授に就任し、現在に至る。2004年4月から長崎大学学長補佐、2005年4月から副学長（国際戦略担当）。専門は、免疫学、免疫遺伝学、熱帯医学。医学博士。

WHAT IS? 長崎大学国際連携研究戦略本部とは？

これまでわが国の大学の国際貢献はどちらかというと大学教員の個人プレーに頼っていた傾向にあります。しかも大学自身は直接相手国を支援する資金基盤を持っているわけではありません。国やさまざまな国際機関から国際貢献のための資金を獲得する必要があります。そのうえ国際協力・連携は国際的なルールにのっとり進めていかなければなりません。これらすべての問題を教員個人で処理することには限界があります。大学の持つ人的資源と知的資源をいかに効率的に相手国に注ぎ込むか、そしてその貢献をいかに根付かせるかが重要であり、それらの課題を実現させるために長崎大学国際連携研究戦略本部が作られました。

EFFORTS 大学の果たすべき国際貢献とは？

長崎大学は現在3つの重点項目で国際貢献を進めています。これらのプロジェクトではいずれも海外拠点や国際ネットワークを整備することにより、長崎大学が相手国において地に足が着いた国際貢献を成し遂げようと考えています。それはちょうど今から450年前わが国を訪れた最初のポルトガル人ルイス・デ・アルメイダが南蛮医学を日本に伝え、その後数多くの西欧人が長崎を拠点としてわが国へ西欧文化を広めていった歴史を思わせます。西欧の大学はこのような国際貢献の長い歴史と経験をもとに大学から発する国際貢献が相手国の政治・政策になくてはならない存在になっています。

ROLE 国際連携研究戦略本部が果たす役割

長崎大学国際連携研究戦略本部はまず長崎大学の人的・知的資源を掘り起こして大学が推し進める国際貢献を円滑にかつ、効率的に進めるためのコーディネートを行っていきます。そのために国や国際機関に働きかけてより多くの資金を獲得したり、相手国の状況に応じた種々の交渉や手続きを研究者に代わって行っていきます。例えば現在進行中の感染症プロジェクトではケニアやベトナムに構築した常駐型感染症拠点の運営を助けたり、JICAの大洋州予防接種プロジェクトを運営したりします。近い将来、本部の位置づけは長崎大学のみならず日本における国際貢献一般に重要な役割を果たすことが期待される存在になると考えています。

ベトナム国立衛生疫学研究所（NIHE）
現在、NIHE内に長崎大学共同研究実験室を設置し、日本からの研究者を常駐させた感染に関する研究が行われている。

コーディネーター
山科 知子
Yamashina Tomoko

商社の経験を存分に発揮したい

「長年の商社の経験を生かし、ベトナムNIHEの研究環境を整え、国内外のメーカとの交渉、貿易業務、そして学内調整を行います。少数精鋭で一人ひとりに任される部分が大きいので大変やりがいが大きいですね。」

スイス外資系企業に勤務後、大手日本商社に転職。輸出入貿易の業務に10年近く携わる。2002年に英国留学。ビジネス学部専攻後、翌2003年まで同商社ロンドン支店に勤務。2005年9月から現職。

コーディネーター
高野 直子
Takano Naoko

国際保健とヘルスシステムの活動の場を拡大

「CICORNでは、海外拠点のベトナムプロジェクト調整などを行っています。長年の海外生活の経験を生かし、海外拠点のプロジェクトを開拓しながら、国際保健とヘルスシステムの研究に従事し、活動の場を広げて行くのが目標です。」

国際基督教大学教養学部国際関係学科卒業後、外資系金融会社に就職。2001年米ボストン大学公衆衛生大学院留学（国際保健学・感染症疫学専攻）。2003年からWHO健康開発総合研究センターのテクニカルオフィサーを経て、2005年9月から現職。

チーフコーディネーター
松山 章子
Matsuyama Akiko

CICORNはチャレンジングな仕事

「大学の本来の役割である研究、教育、社会貢献を国際的なレベルで戦略的に行うCICORN。各分野の専門的事柄と事務の橋渡しや、海外を含む大学内外のネットワークづくりなど、とても魅力的な仕事でやりがいを感じます。」

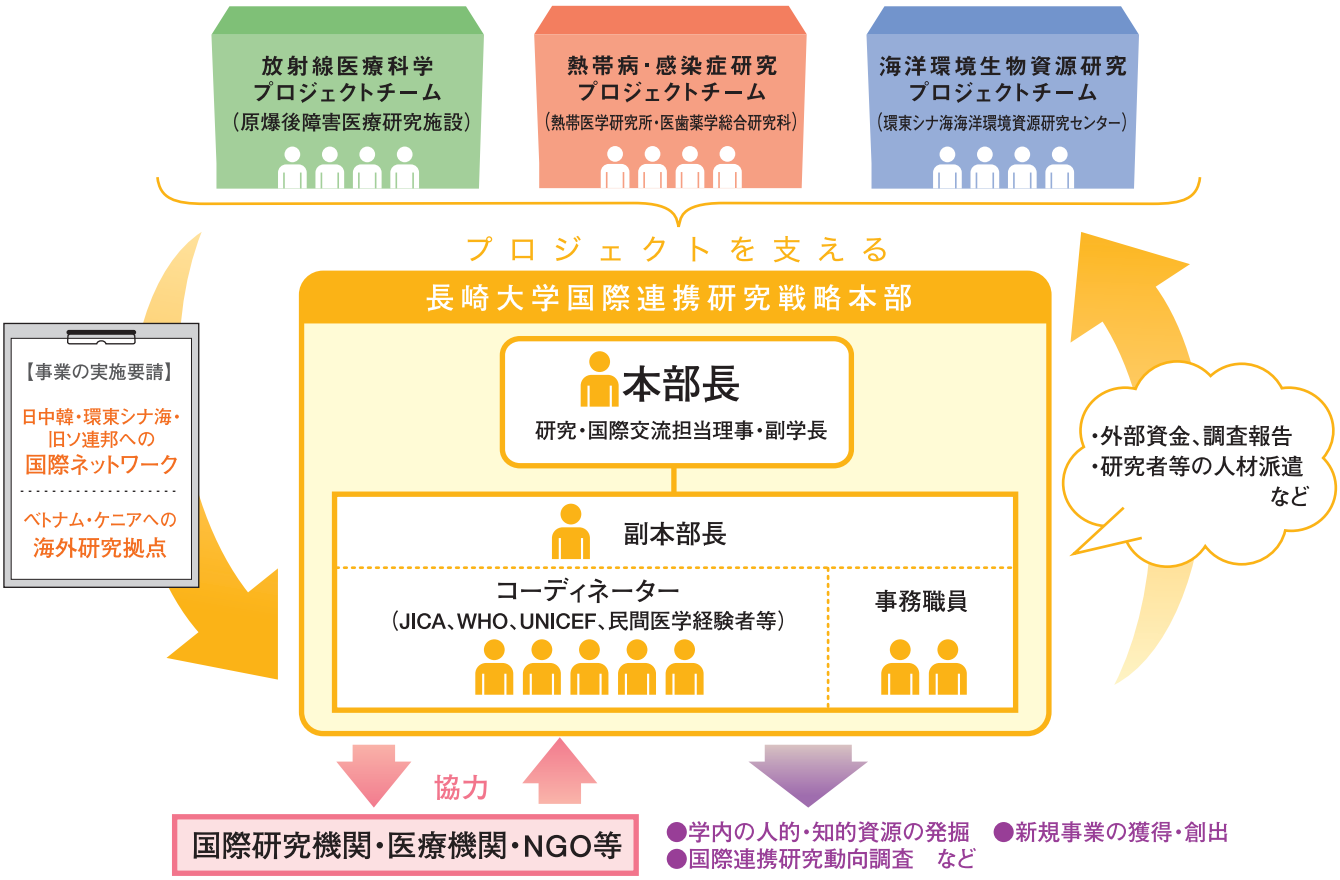
熊本県出身。大学卒業後、フィリピン、パキスタン、バングラデシュ、ネパール、インドネシアにユニセフ(国連児童基金)、NGO、JICAなどの仕事で約8年近く滞在し、女性や子供の健康、開発の仕事に従事。長崎大学には2005年5月に熱帯医学研究所に入り、10月から現職。専門は医療人類学、女性の健康。ジョンズホプキンズ大学にて博士号取得(国際保健・医療人類学)。

コーディネーター
古矢 佳男
Furuya Yoshio

世界の研究者の支えとなっていきたい

「ベトナムの首都ハノイにある国立衛生疫学研究所(NIHE)と長崎大学との間でプロジェクトが開始され、そこに開設される共同利用研究室に勤務しています。プロジェクトの研究活動で日本やベトナムの研究者が各研究に専念できるよう、後方から支援しています。」

WHOの太平洋地域リンパ性フィラリア症撲滅計画(PacELF)においてアシスタント・プログラムオフィサーとして2年間フィジー勤務。臨床検査技師、青年海外協力隊、ODAコンサルタント、国連ボランティア等も務める。



国際連携研究戦略本部 機構図

コーディネーター
ソール・ヘルフェンバイン
Saul Helfenbein

「連携」と「戦略」の2方面を強化

「CICORNが特に国際保健や他の分野における国際連携研究のための戦略を打ち立てることが大切です。マネージメント能力を強化し、信頼性を高め、外部資金獲得につなげる必要があります。」

公衆衛生プログラム改善のためのマネージメントシステム強化専門担当、HIV/AIDS、リプロダクティブ・ヘルス、母子保健の分野においてアジア、アフリカ諸国で長年仕事に携わる。戦略本部以前は、ボストン大学保健医療プロジェクトチームで8年、アメリカの大手NGOであるMSH(Management Sciences for Health)に18年勤務。また、日本の外務省外郭団体であるFASID(国際開発高等教育機構)で実施されているHIV/AIDSのトレーニングコースのファシリテーターを務める。

前国際連携研究戦略本部マネージャー・
戦略本部企画・立案者
國井 修 Kunii Osamu

国際化のリーダー的存在を目指すCICORNに期待

「設立前から人材や組織の方向性について議論を重ね、ようやく誕生したCICORN。長崎の出島が日本の世界への窓であったように、CICORNが日本の大学の国際化をリードする組織として発展して欲しいですね。」

自治医科大学卒業後、在日外国人に対する医療サービス充実や無医村での医療活動に従事。1993年、米国ハーバード大学公衆衛生大学院で公衆衛生学修士(MPH)取得。2000年に東京大学大学院医学系研究科講師、2001年、外務省経済協力局課長補佐、2004年、長崎大学熱帯医学研究所教授。2006年2月より米ニューヨークの国連児童基金(ユニセフ)本部保健医療局の新設ポストに赴任。

TOPIC

大学の国際化に関するシンポジウム・運営会議を開催

1月23日(月)長崎大学国際連携研究戦略本部主催の「大学の国際化に関するシンポジウム」が長崎市内のホテルにおいて開催されました。

シンポジウムでは、精力的に国際化に関する活動を行っている文部科学省、早稲田大学、立命館大学を例に、これから国際化に向けて

大学の国際化に関するシンポジウムの様子。約200名が参加者した。(長崎市内のホテルにて)

ショート対談

ソール・ヘルフェンバイン ＋ 國井 修

人材こそがCICORNの鍵

医療分野の国際貢献とはどのようなものかについて国際連携研究戦略本部のスタッフであるソール・ヘルフェンバイン教授と國井氏による対談が行われました。本対談は英語で行われたものを日本語訳にしたものです。

國井　本日は、長崎大学国際連携研究戦略本部(CICORN)についてお話をするとともに、CICORNが新たにお迎えしたソール・ヘルフェンバイン教授を皆様にご紹介したいと思います。

ヘルフェンバイン　私が公衆衛生に携わるようになったのは、1969年のことで、さまざまなフィールドで仕事をしてきました。日本と関わるようになったのは、1994年に日本政府が行った2つの提言がきっかけでした。

1994年にカイロで開催された人口開発会議で、日本政府の地球規模の問題に主導的に関わり、また、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)とHIV/AIDS問題が、日米間の共通課題に設定されました。国際開発高等教育機構(FASID)では、約12年間に渡ってHIV/AIDS分野のプロジェクト策定および管理に関し、ボストンに本部を持つ「マネジメント・サイエンセス・フォー・ヘルス(健康科学の管理機構)」という米国の組織にも関わってきました。この組織は、公衆衛生分野における日本の指導力を開発するという、大変興味深いプログラムを実施するとともに、「岩村国際保健フェローシップ」を創設しました。また、日本のNGO「HANDS」の創設時には、設立の支援を行い、初期の段階でお手伝いをしました。

國井　ありがとうございました。それでは、公衆衛生における世界的な問題と、それらの問題への対処方法についてもお聞かせ下さい。

ヘルフェンバイン　主な病気の根絶は、依然として大きな課題です。麻疹や肝炎をはじめとする基本的な小児疾患の一部は、予防が可能となってきました。そして、ポリオも、おそらく近い将来には根絶へと向かうでしょう。しかし、まだ問題のある疾患が数多くあります。多くの寄生虫症や水を媒介とする感染症が原因で、多くの人々が亡くなったり、苦しんだりしています。マラリアでは、年間300万人もの子供たちが犠牲となっています。

取り組みが必要な国際保健分野の問題の一つに、医療サービスへのアクセスがあります。開発途上国で基本的医療サービスを恒常的に利用しているのは、人口のわずか10～20%と推定されています。サービスを利用する人々の割合が低いため、多くの人々が、健康を損なっています。これは、医療へのアクセスの問題であり、対応が必要です。

もう一つの大きな問題は、医療サービスの管理です。医療サービスは、しばしば不充分な形で管理されています。そのため、極めて限られた財源が、無駄あるいは非効率な形で利用されることが多いのです。よりよい計画立案・監視・評価、財務管理、物資輸送、および情報システムを通じて、管理のあり方を改善しなければなりません。

取り組みが必要なその他の領域としては、子供のための予防接種拡大計画(EPI)、家族計画等、以前と比較して財源が縮小してきているプログラムの問題があります。私は家族計画およびEPIを「終わりのない仕事」と呼びたいと思います。

國井　次にCICORNへの期待についてお話し下さい。

ヘルフェンバイン　CICORNのプログラムの多くは、研究を中心に据えたものと思われます。研究自体は素晴らしいものですが、研究の問題とは、研究の成果をいかに素早く人々のために役立てるかということです。この研究成果の利用の問題に、取り組む必要があります。

長崎大学国際連携研究戦略本部
コーディネーター
ソール・ヘルフェンバイン
Saul Helfenbein

ショートレポート

今、国際貢献に求められるもの

～大学の国際化に関するシンポジウムより～

今、国際化の波は大学でも顕著です。今回行われた「大学の国際化に関するシンポジウム」に参加していただいたパネリストのみなさんに、大学の国際化に必要なキーワードを尋ねました。

渡辺 その子（文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官付国際交流推進官）

「現在各国際機関の活動により、世界にはインフラ整備が進み貧困から脱却しつつある国が多くあります。そういう国には次の段階として技術支援、技術転移という体制が確立されていかなければなりません。私は大学が果たせる役割の中に、このような支援や、彼ら自ら世界の研究競争に参画できる体制づくりがあると思います。」

村岡 洋一（早稲田大学研究推進担当常任理事）

「私学は授業料で成り立っている分、学生に国際的な舞台へ出向くチャンスを与え、教育面からサポートすることでトップを目指す国際貢献を行っています。しかし、国公立大学は財務状況を判断しながら、国際関連や各研究分野にうまく金銭を投資できるところです。長崎大学ができる国際貢献のいろいろな可能性に期待しています。」

慈道 裕治（立命館大学国際機構長）

「学生が将来、国際的な貢献を果たせるよう、私立大学はすでに様々な環境づくりを行っていますが、これからは職員にも目を向け、職員の皆さんに国際貢献について、どう夢や高い志を植え付けていくかが必要だと思います。また、職員の持つ組織的力量に注目し、学生と共に国際化に貢献できる組織ができれば良いと思います。」

Walther H. Wernsdorfer
（ウィーン医科大学熱帯医学予防研究所教授）

「ぜひ、メディアの活用を実践していただきたい。海外では国際的研究の評価が、いかに質の高いメディアを用いて、研究を公表できるかにかかっています。そのような場に出向くことも一つの国際貢献の形ではないでしょうか…。」

浦元 義照（国際連合児童基金東京事務所日本・韓国兼任代表）

「大学と民間、官公庁とのつながりがスムーズになることが大切だと思います。各機関の人間がスムーズに行き来できれば、縦割りの行政体制も薄れ、民間と官公庁などの協力が押し進められます。そうすると、いち早く国際関連のさまざまな諸問題に対して対応できるはずです。長崎大学もそういう貢献をしていただければと思います。」

池上 清子（国際連合人口基金東京事務所長）

「大学の国際貢献に必要なことは、『国内を見渡す』『プロジェクトの主宰となる』『留学経験者の学生と共に行う』ということ。やはり、国際貢献に携わる人には、英語を使いこなせる方が必須でしょう。話せるだけでなく、自分の意見を英語で述べ、書け、発表できる力が必要とされますから。」

パネルディスカッション

運営会議

必要とされる理念・方針等の講演が行われました。

さらに、パネルディスカッションも行われ、『国際貢献における大学の役割とは何か』についてさまざまな提言等が出されました。

また、翌24日(火)、国際戦略を強化する事業指針と、さまざまなプロジェクトに関して、大学内外からなる運営委員による運営会議を実施。

ここでは各委員の専門的立場から、長崎大学国際連携研究戦略本部への助言、提案等の意見交換が行われました。

第2に、大学とは、科学およびその他の分野に将来従事する人々を訓練する機関であるため、実施されるプロジェクトの人的能力の開発に、一層の注意を払う必要があるかと思います。長崎大学の学生だけではなく、プロジェクト実施国の人々を含めての人的能力の開発です。

例えば、ベトナムまたはケニアで実験室や研究拠点を整備する場合、ケニア人またはベトナム人研究者の能力を開発するための基盤として、その拠点をどのように利用するのでしょうか。今、私たちが直面している結核やＨＩＶ／ＡＩＤＳの問題では、優秀で効率的な研究室を有していることが極めて重要となっています。日本人研究者のための実験拠点の整備を、開発途上国における全般的な実験設備能力の開発という、より規模の大きなシステム開発の問題に取り組むための足がかりとするチャンスではないかと感じています。

そして、3番目の有用な領域は、情報の共有です。これは、研究者のみならず、医療制度の開発に携わる全ての人に関わる問題です。特定のプロジェクトの参加者間だけではなく、国家、地域そして国際的な規模でのより頻度の高い情報の共有が必要です。情報の共有化によって、新しいアイディアが生まれ、各種プロジェクト間の相乗効果や融合が可能となります。

國井　お話し下さいましたように、ＣＩＣＯＲＮは、情報の共有化を進めておりますし、現行の3つのプロジェクトを拡大していくことを望んでいます。実際のところ、ＣＩＣＯＲＮは、長崎大学と世界を結ぶ架け橋のようなものです。また、学際的なプロジェクトの運営も行いたいと考えています。

そして、研究だけではなく人材開発や世界のニーズに応えるための活動の拡大を目指しています。また、国内外の民間および公的機関とも、よりよい協調関係を築くことを望んでいます。

最後に、その使命や戦略と共に、人材こそがＣＩＣＯＲＮの鍵であることを付け加えさせていただきたいと思います。

前国際連携研究戦略本部マネージャー・
戦略本部企画・立案者
國井　修
Kunii Osamu

自然あふれるゆとりのキャンパス

長崎大学（文教キャンパス）はさまざまな木々と野鳥が観察できる自然豊かなキャンパスです。四季折々変化する木の表情が見られ、鳥のさえずりが聞こえる中、毎日教育・研究や課外活動が繰り広げられています。今回長崎大学では、自然に恵まれたキャンパスについてイラストマップを作製しました。手に収まるサイズなので、ぜひ、キャンパスマップを片手に学内を散策してみて下さい。

◀は玄関又は主な出入口を表します。

1 薬用植物園・シーボルト記念植物園

面積は1,500平方メートル。約400種類の漢方原料、民間薬の原料、ハーブなどの薬草植物が栽培されています。シーボルト記念植物園を併設しています。

◎開園時間8:30～17:00
（土・日・祝日を除く。）

2 生協（せいきょう）

生協でおなかいっぱいリーズナブルに召し上がれ。

生協食堂では、安く・おいしく・栄養バランスのとれた食事をとることができます。主菜・副菜を組み合わせることもできるので、嗜好面・経済面・栄養面で合理的なのです。

店長オススメメニューはコレ。

注文を受けてからゆでる温かい麺類も人気なのです。

3 おもやい広場

長崎大学創立50周年を記念し、2000年に教育学部中庭に設けられた「おもやい広場」は、学生参加型プロジェクト「夢大賞募集」で大賞を受賞した「大学にビオトープを」と、「明るい快適なキャンパス」の2つを併せて実現したもので、学生・教職員がリフレッシュできる美しいキャンパスづくりとして整備されたものです。

「おもやい」とは、共同共有の意味

中部講堂

1962年3月26日完成。大洋漁業中部謙吉社長の寄贈によるため「中部講堂」と称します。1996年にリニューアルし、714席、放送、映写、舞台設備などが整備されました。

教育学部の前身の長崎師範学校の同窓生が、原爆の犠牲となった学友54名の追悼のために1959年に建立したもので、毎年8月9日には、原爆慰霊祭が行われています。

第二次世界大戦中、現在の長崎大学文教キャンパスの敷地には三菱長崎兵器製作所大橋工場がありました。原子爆弾の炸裂によって、多数の犠牲者を出しました。原爆で亡くなられた方々の冥福を祈り、二度とこのような惨事が繰り返されることのないよう願って建てられました。

山本稚彦氏制作。1958年日展で文部大臣賞を受賞した作品。原題は「北の人」。山本氏が旧ソ連の捕虜となって収容生活を送った中で、生死の瀬戸際でも人間性を失わない、その思いを根底に、苦しかったシベリアの生活を振り返るように、顔を傾けたものです。先生の許しを得て「若人」と改題しましたが、前進の姿勢を次代の若人達に伝えたいという山本氏の祈りを込めて無償で提供されたものです。

文教キャンパスで見ることができる木々たち

（協力：教育学部　中西弘樹教授）

木々がたくさんあるから野鳥たちもたくさんあつまってくるんです。

セコイア（スギ科）

クスノキ
（クスノキ科）

独特の臭いがあり、樟脳の原料にされた。キャンパスに一番多い木。

タイサンボク
（モクレン科）

初夏に大きな白い花を咲かせる。葉は革質で光沢があり裏は茶色の毛が密生している。

ヒマ

ワシントンヤシモドキ
（ヤシ科）

ワシントンヤシに似ているが幹は細い。街路樹としてよく植えられる。

ユーカリ
（フトモモ科）

オーストラリア原産で800種もある。高さは100mにもなる。特定の種はコアラの食草となる。

フェニックスと呼ばれる。公園や公共の建物の入り口などに植えられる。

カシワ
（ブナ科）

日本海側の海岸に多い落葉高木。この葉で餅を包むことは有名。

中国中南部原産の落葉低木。日本では鳴滝のシーボルト宅跡で発見された珍しい樹木。

医学は長崎から

連載 Vol.1

《出島の医学の誕生》

大学院 医歯薬学総合研究科
相川 忠臣 教授
Aikawa Tadaomi

▲［①］春徳寺付近(長崎市)の
ルイス・デ・アルメイダ記念碑

「ルイス・デ・アルメイダ　医師にして宣教師、長崎を訪れた最初のポルトガル人、1567年」とある。1569年唐渡(トード)山の麓、現在の春徳寺付近にトードス・オス・サントス教会堂が建設された。ビレラ神父の命名であるが、アルメイダがリスボンで医療に従事したTODOS OS SANTOS病院にちなんで神父に提案したのではなかろうか。　(結城了悟氏の御教示)

▲［②］天草本渡のルイス・デ・アルメイダ記念碑

日本最初の南蛮外科医 ルイス・デ・アルメイダ 長崎開港の扉を開く

来る2007年はポンペ・ファン・メールデルフォールトが近代西洋医学教育を創始し、長崎大学が発祥して150年の記念すべき年である。さらにルイス・デ・アルメイダがホスピタルを建て南蛮医学を伝えてから450年、長崎に初めて福音を伝道してから440年の節目の年でもある。医学部新入生最初の講義では、素晴らしい国際医療人であったポンペやアルメイダのように学生が育ってくれる事を願って、彼らの生涯について語っている。

イエズス会の聖フランシスコ・ザビエルは1549年にコスメ・デ・トーレス神父らと共に来日し、初めてキリストの福音を伝道した。ザビエルの志を継ぎ日本に残ったトーレス神父の代理人として日本各地に伝道した宣教師アルメイダは日本最初の南蛮外科医である[①]。ポルトガルのリスボンで医師となったアルメイダはインドに渡り、貿易で財を成した。日本とマカオの交易に関わる高名な商人であったが、全ての富をイエズス会に寄進して修道士となった。彼は、1557年に大分府内に設立された日本初のホスピタルで、外科の卓越した技量と良薬で病を治し、修道士として魂を癒した。その後、日本各地に宣教の旅に出る。平戸でのポルトガル人殺害の事件後、彼は大村純忠と交渉し、平戸に代わる港として横瀬浦(佐世保湾口)を選び、教会を建てトーレス神父を迎えた。神父は純忠に授洗、初のキリシタン大名が誕生した。反対勢力により横瀬浦が焼き討ちにあった後、会の本部は転々と変わる。アルメイダは1567年長崎に初めてキリストの福音を伝道して教会を開いた。この時、彼は長崎開港の扉をも開いたのである。1571年、長崎の町が建設され、ポルトガル船が入港した。長崎はイエズス会領となり、キリスト教布教と南蛮貿易の中心地として発展した。アルメイダは島原、天草で布教し、多くの信者を得た。司祭に昇格したのは亡くなる4年前であった。1583年に天草河内浦において慕う信徒に惜しまれながら58歳で逝去した[②]。

キリシタンによる神社仏閣の破却に怒った豊臣秀吉は、1587年布教を禁止、徳川家康、秀忠、家光と時代が進むにつれ、禁教は厳しくなった。1638年アルメイダの信徒の子孫は天草・島原の乱で原城に立てこもり、全滅した。1639年出島に隔離されていたポルトガル人は追放され、1641年オランダ商館が平戸から出島に移された。この後南蛮医学に代わり紅毛医学が出島から導入されるようになる(ポルトガル人を南蛮人、オランダ人を紅毛人という)。

▲［③］ケンペルが将軍綱吉に拝謁し、歌を披露した図
(日本誌 所収 ケンペル著、長崎大学附属図書館医学分館蔵)

図中の番号14が歌うケンペル、16は通訳の大通詞である。1691年は横山與三右衛門、1692年は本木良意がケンペルの通訳を務めた。

▲［④-c］スクルテタスの外科の武器庫
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)

▶[⑤]吉雄耕牛肖像(長崎大学附属図書館医学分館蔵)
絵は牛島若融、由良篤の吉雄耕牛肖像引並賛。

▲[④-a]紅夷外科宗伝
3つの肩関節脱臼整復図と
全身骨骼図はパレの外科書にみられる。

▲[④-b]パレの外科書
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)

出島の医学の誕生とオランダ通詞

1649年に出島の商館医となったカスパル・シャンベルゲルは、江戸で幕府の重臣たちを治療して名声を得た。軟膏、膏薬を用いる彼の治療法はカスパル流外科として流布した。代々の出島の外科医から医学知識を得、蘭書を訳出するオランダ通詞達の努力により、紅毛外科は定着した。本木、楢林両家の初代通詞は出島の医学の誕生に多大の貢献をした。

本木良意(1628~1697)は平戸から長崎に移住してきたオランダ通詞である。良意は江戸番通詞として9度も江戸へ参府した。将軍綱吉にオランダ人が拝謁した折、歌を所望され、とまどうオランダ人に代わってオランダ舞や歌を披露して、将軍より破魔矢を賜った。その後、ケンペルも江戸に参府した折、綱吉の前で歌を披露している[③]。優れた語学力で解剖図『小宇宙鑑』(J・レメリン著)を1680年代に翻訳した。1774年に杉田玄白らが解体新書を出版する90年も前に長崎蘭学は成立していたのである。盲目腸、十二指腸の腸、直なる腸のような訳語を使用していて、後世の盲腸、十二指腸、直腸という解剖用語の元であったことをうかがわせる。

楢林鎮山(1648~1711)は楢林流紅毛外科の開祖である。その著『紅夷外科宗伝』(1706)[④-a]は長崎大学附属図書館医学分館に所蔵されている。カラーの外科手技や外科器具の図が見事である。その原典はアンブロアス・パレの外科書[④-b]とジョアネス・スクルテタスの『外科の武器庫』[④-c]である。出島の外科医の伝習した内容を鎮山がまとめたのではないかとも言われている。

吉雄耕牛(1724~1800)[⑤]は吉雄流紅毛外科を広め出島の医学を開花させた。出島の外科医バウエルやツュンベリーに学んだ。ツュンベリーは梅毒の水銀剤による治療を教えた。水銀による治療は卓効があり、長崎の梅毒患者の多くが耕牛の元に殺到した。耕牛は尿の診断法を日本に初めて導入した。蘭書に広く目を通して医学に通暁していたので多くの門弟が集まった。江戸番通詞を11度も勤め、江戸の蘭学者と交流を深めた。前野良沢は耕牛に学んだ。良沢や杉田玄白による解体新書に耕牛は序文を寄せている。吉雄流外科に吉原元棟の整骨法を取り入れている。門人の二宮彦可は吉原氏に学び整骨術を唱導した[⑥]。顕微鏡など西洋の品々であふれる吉雄邸は長崎を訪れる人々の名所であった。

◀[⑥]正骨原(せいこつげん)
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)
正骨範の著者二宮彦可の養嗣子二宮督が正骨範に収載される整骨手技のうち16図を右香斎に描かせたもの。徒手整復術の基本型が示されている。

[④-a]紅夷外科宗伝▶
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)
右の身体各部処置図はスクルテタスの外科の武器庫にみられるが、左の下腿切断図は原典不明。

いいたか放題 改革の時 ～地域に根ざした組織づくりへ～

私がこの長崎の地に初めて足を踏み入れたのは、昭和29年（1954年）の3月でした。長崎大学を受験するために、島根県津和野町から汽車に乗って丸一日かけての長旅でした。その時のときめきと新鮮な驚きは、遠い昔のことのようでもあり、つい最近のことのようでもあります。

あれから52年の歳月がながれ、長崎の街はいま大きく変わろうとしています。出島ワーフ、水辺の森公園や出島周辺の修復、長崎県美術館や長崎歴史文化博物館のオープン、女神大橋の開通など、文化・観光面でのランドマークが誕生し、ロマンの街長崎の佇まいを色濃くみせてくれています。こうした魅力あふれる街にあって、決して大きくはないかもしれませんがすばらしい個性をもつ長崎大学を誇りに思います。

学生は、今も昔も人それぞれに夢を抱いて入学してきています。「夢は、願い続けていれば必ず叶う」と言いますが、学生が勉学だけではなく、いろいろな経験を積みながら成長し飛躍していくことができる環境を整えることも、大学の大きな使命の一つではないかと思います。大学の法人化を契機に産学官の連携強化など、更なる改革に取り組んでいかれるよう期待しています。

放送業界も、今年12月には日本全国のテレビ局で地上デジタル放送が始まります。デジタル化に対応するためには多額の経費がかかります。私達はそうした厳しい状況にあっても、地域にしっかりと根をはって地元を応援するローカル放送局としてたくましく生き残っていけるように、企業体質の改善と強化に取り組んでいるところです。

長崎放送会長
冨田　忠溥
Tomita Tadahiro

1935年1月生まれ、島根県出身。1958年長崎大学経済学部を卒業し、同月、長崎放送入社。1980年取締役ラジオ局長から、東京支社長などを経て常務、1992年専務取締役。1996年副社長、1998年代表取締役社長を経て、2004年会長に就任。公職では、2001年と2005年に長崎市教育委員長を務め、2000年11月、長崎市特別職報酬等審議会委員も務める。

インタビュー 長大生に望むことはどんなことですか？

自分の経験から言えるのは、「夢を抱き、それに向かって進んでいけば最後には実現する」ということです。どんな時でも夢に対する熱い思いを忘れず、それを実現するために自分なりの努力をしてください。そういう努力をすれば、その過程でいろいろな運に恵まれ、それなりの結果が出ると思いますよ。

運といえば、周囲の人のサポートや価値観が同じ人との出会いもそれにあたるでしょう。そういう機会や人に出会ったら、その人との縁を大切にしてください。その方々の応援があってこそ、夢は実現に近づくものでもありますから。

気持ちを張りつめすぎたり焦ったりせず、一歩一歩確実に進んでいく姿勢でぜひがんばってほしいですね。

白と黒の袴姿と弓を射る姿が勇ましい弓道競技。弓道は日本古来の武道として受け継がれ、今では心身鍛練を目的とした競技の一つとして確立しています。

弓道の動きは至ってシンプル。「ねらいを定めながら矢を射る」という、一見すると単純な動作のようですが、実はこの一連の動きの中にこそ、弓道の本質があると部長の坂本功さん(工学部2年)は言います。

「弓道は、基礎の上に応用技術が必要な一般スポーツとは違い、『射法八節』といわれる基本動作だけで成り立っているようなもの。気づかないうちにいつもとは違う引き方をしていることがあり、そうなると的中が安定しません。その修正や調整は難しいところですが、実はこの原因の一つひとつを自分で探ることが弓道の面白さであり、魅力だと思います。」

射法八節の動作が美しく成された時、矢は的の真を射る。

広い弓道場は部員たちも気に入っているとか。のびのびと、また集中しながら練習ができるそうです。

現在部員は21名。高校から弓道を続けている部員も多いそうです。

弓道部 部長
坂本　功さん

歴代の表彰状がずらり。前回の全日本学生弓道選手権大会では、女子が団体で準優勝を果たしました。

基本動作を一つひとつ意識しながら、的を狙う練習を行っています。

一度練習が始まると、凛とした空気が漂う弓道場。代々、練習時の集中する姿勢が受け継がれているせいか、弓道部は男女とも各弓道選手権大会で準優勝や入賞という成績を残しています。

「弓道は『地道な自分との戦い』という面がほとんどだとは思いますが、これだけたくさんの大会で良い成績が残せるのも、部員やOBの方の協力なくしてはできなかったと思います。」と坂本さん。試合前の強化練習はもちろん、OBが頻繁に顔を出し、指導をしてくれる事が弓道部の誇りだそうです。

「今見渡すと、取材でみんな顔が緊張していますが、いつもは結構和気あいあいと練習をしていますよ。(笑)」

現在は10月に行われる九州学生弓道選手権大会での入賞を最終目標に正規練習が始まったばかり。3月に恒例の春季合宿を行い、OBの指導のもと、審査の対象となる基本動作や、弓具の勉強を含め実技と知識の両方から総合的な実力強化に取り組みました。

今後はリーグ戦に勝ち残れるチーム作りが目標という弓道部。実力が結果として現れつつある今、一本一本矢を射る部員の手に、それぞれの気合いが込められます。

技術を知りました。魚そのものの見た目を変えている器用さにも驚きましたが、食べる人の事を考えて形や味を工夫している部分がすばらしいと感じました。

コスタリカでは魚にこのような加工は施さず、ただ焼いて食べるのが主流です。『手間を惜しまない』という日本の伝統の受け継がれ方に驚きましたね。

Q3 コスタリカと日本でギャップを感じる時はどんな時でしょうか？

そうですね、例えば「味の感覚の違い」でしょうか。甘いものが大好きなコスタリカ人にとってはごく普通のことですが、お米はコンデンスミルクやシナモンなどと一緒に煮て食べます。しかし、多くの日本人はこの甘さに耐えられないみたいでこちらがびっくりしました。逆

た

Q4 デイシーさんのこれからの目標は何ですか？

デイシーさんとご両親

研究中のデイシーさん

長崎大学広報誌
［長報：チョーホー］
CHOHO
Vol.15

編集後記

法人化後の長崎大学では、いろいろなプロジェクトが進行中です。地域貢献と並んで重要な国際貢献。いま、「国際連携研究戦略本部」（CICORN）では、他大学にない特色ある事業が展開されています。長期的な展望にたっての国際貢献で、やっと歩み始めた段階ですが、今回は、CICORNの多彩なスタッフと活動の現状を紹介しています。

日本における近代西洋医学の出発は、長崎であることは皆様もご存知のとおりです。来年、医学部が創立150周年を迎えるにあたって、「医学は長崎から」の連載を企画しました。「長崎学」の講義も担当されている相川教授に、4回の連載で執筆をお願いし、豊富な写真を入れた構成にしています。医学という切り口から歴史を眺めてみることで、新鮮味が感じられることでしょう。

［編集・発行］
長崎大学広報企画委員会
（広報誌企画・編集専門部会）
TEL. 095−819−2014
FAX. 095−819−2024
〈E-mail〉
www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

［発行日］
2006年4月1日

PRINTED WITH SOY INK
R70
古紙配合率70％再生紙を使用しています。

Information

［平成18年度］長崎大学公開講座のご案内

興味のあることをより深く学べる長崎大学の公開講座。
今年度も多彩な24講座を用意いたしました。ふるってご参加ください。

※申込方法など詳細につきましては、順次、本学ホームページ（http://www.nagasaki-u.ac.jp）、ポスター等でお知らせいたします。

講座名	開催予定日	受講対象者/募集人数	受講料	連絡先 市外局番（095）
平和・多文化共生の構想を深める	4/26～1/24（全10回）	市民一般 30人	6,200円	教育学部総務係 TEL.819−2263
現代経営：企業戦略とCSR（企業の社会的責任）	4/28～6/16（全7回）	市民一般 30人	6,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
現代中国経済入門講座	5/20・5/27（全2回）	市民一般 20人	5,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
心の教育総合支援センター公開講座				
Part 2 長崎で子どもの死を考える Part 3 発達の気になる子どもの支援	5/27～12/2（全9回）	市民一般 50人	7,200円	学生支援部学務課 TEL.819−2072
薬学講座「自然界のおくすり −健康食品と漢方薬−」	6/3～7/8（全5回）	市民一般 10人	6,200円	医歯薬学総合研究科学術協力課企画調査係 TEL.849−7195
現代社会と法	6/5～7/31（全4回）	市民一般 30人	7,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
定年の経済学	6/13～7/31（全6回）	市民一般 50人	7,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
あなたにもできる救命処置 ～心肺蘇生と自動体外式除細動（AED）の実際～	6/17（全1回）	医療従事者（看護師など）・市民一般 25人	5,200円	医学部・歯学部附属病院看護部（担当：高橋） TEL.849−7525
地域づくり講座（副題：地域再生人材創出拠点としての公民館の再生）	6/17～2/17（全9回）	地域づくり関係者・行政職員・社会教育関係職員・生涯学習担当学校関係者など 15人	7,200円	生涯学習教育研究センター TEL.819−2234
現代会計入門	6/23～7/28（全6回）	市民一般 30人	6,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
食育講座 ～食生活で変わるわが家～	6/24～9/9（全6回）	市民一般・教員・保育関係者 30人	6,200円	生涯学習教育研究センター TEL.819−2234
経営意思決定の最前線 −21世紀の企業経営を考える−	7/1・7/8（全6回）	市民一般、学生、特にMBA, DBA（経営学博士）に興味のある方 50人	6,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
ロボット・エレクトロニクス入門 −ロボットの未来を開くエレクトロニクス技術−	7/1～7/22（全4回）	市民一般 40人	6,200円	工学部電気電子工学科事務室 TEL.819−2550
新次元のデータ分析法「データマイニング」入門	7/11～8/1（全4回）	社会人、学生 35人	6,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
地域に根差した美術 IX	7/16～11/19（全5回）	市民一般 50人	8,200円	教育学部総務係 TEL.819−2263
生き生き健康ライフ講座 IV	8/26～9/9（全3回）	市民一般・医師・看護師・栄養士・保健師 50人	5,200円	医学部・歯学部附属病院 生活習慣病予防診療部 川崎 英二 TEL.849−7550
生物多様性保全 ～私達市民が出来ることを学ぼう～（仮題）	9/1～10/6（全6回）	市民一般 30人	6,200円	環境科学部総務係 TEL.819−2716
メンタルヘルス入門講座	9/4～12/11（全12回）	市民一般 50人	8,200円	医歯薬学総合研究科 病態解析制御学講座 精神病態解析制御学 TEL.849−7293
デジタル画像処理入門	9/9・9/16（全2回）	デジタル画像処理初心者（Windowsパソコン利用経験者） 20人	6,200円	長崎大学情報メディア基盤センター TEL.819−2222
遺伝学講座 IV −遺伝について楽しく学ぼう−	9月中旬（全1回）	小学校高学年 30人	無料	医歯薬学総合研究科 学術協力課企画調査係 TEL.849−7195
世界と日本の経済動向 −2006年秋−	10/13～12/1（全7回）	市民一般 30人	6,200円	経済学部総務係（担当：柴原） TEL.820−6304
歯科インプラントにおけるアシスタントワークコース	11/12（全1回）	歯科衛生士・歯科助手	5,200円	医学部・歯学部附属病院 TEL.849−7704
口腔病変の早期診断と治療 −口腔細胞診のすすめ−	11/12（全1回）	歯科医師・医師	5,200円	医学部・歯学部附属病院 TEL.849−7704
水産学部公開講座（仮）	未定	今後公表予定の内容に興味を持つ方であれば特に限定しません 未定	無料	水産学部総務係 TEL.819−2793

表紙について

White Ball+連なり
～見方を変える～

長崎大学大学院
教育学研究科美術教育専攻（絵画）
田熊　沙織

絵画制作を通して学んだ事の一つにインスタレーションがあったという作者。インスタレーションとは、作品とそれを展示する環境を関連づけ、一つの芸術作品として捉える表現方法です。「白いボールは創造の原点というイメージで作りました。一つの創造が形になるまでには、さまざまな発想をつなげたり、切り離したり、ものの見方を変えたりしながら構想を練りますが、その行為をインスタレーションで表現。発想の膨らみが感じられる柔らかい雰囲気を心がけました。」と田熊さん。撮影場所に選んだのは長崎のランドマークとなっている水辺の森公園です。公園に注ぐ暖かな春の光、そして新緑が芽吹く様子と発想の膨らみ・連なりのイメージがうまくとけ合い、全体としてやさしい雰囲気も感じ取れる作品です。

http://www.nagasaki-u.ac.jp/